

職場で濃厚接触者を作らない心がけを！



図. 沖縄県での医療従事者の感染者・濃厚接触者による休職者数の推移（大阪府資料より）

オミクロン株を主流とした新型コロナ第6波が全国を襲っています。かつてない規模の流行であり、いつ誰が感染してもおかしくない状況です。阪大病院の被害を最小限にするためには、同僚や患者さんに広げないという日頃からの心がけが重要になります。

これまで濃厚接触者が発生した状況を見ると、多くの場合は食事の際に黙食・マスク会食が徹底されていないかった事例です。大阪府の第6波の感染者のリスク行動に関する調査でもやはり会食が最も多かった感染機会であったと報告されており、「マスクを着けていない人同士の会話」による感染リスクが高いということはこれまでと変わりません。

自分が感染しているかもしれないという可能性を常に考えた「かもしれない感染対策」を意識しましょう！



くつ王に聞いてみよう その7

Q. あー、なんか朝から微熱があるなあ…ちょっとだけノドもイガイガするし…咳も出るな…でもそんなにきつくないし、ワイが急に休むと回りのみんなに迷惑かけるし…やっぱ出勤した方がいいよね？

A. あきまへんやで！！！！！！

自己を顧みずに咳をゴホゴホしながらも懸命に患者さんのために働くその姿、まさに医療従事者の鏡……ではありませんっ！！

確かに今は新型コロナの急増により感染者や濃厚接触者になって休職する方が増えています。あなたが職場を休んだら周りに負担がかかるかもしれません……。しかし、もしあなたがコロナに感染していたとしたら、周りの同僚や患者さんに感染が広がって、クラスターになったり、最悪の場合は患者さんの命に関わることもあります。体調を崩したときはちゃんと仕事を休みましょう。

体調が悪いときに休みやすい職場の空気づくり、仕組みづくりも大切です。体調不良のために休みたい、と言い出しやすい職場を日頃から心がけましょう。

また、休職者が増えた場合に業務を継続するための計画（BCP）を平時から準備しておくことも重要です。

